

山田小学校再編に関する第4回保護者説明会

計画HP



山田小・胸上小
の再編HP



令和8年5月

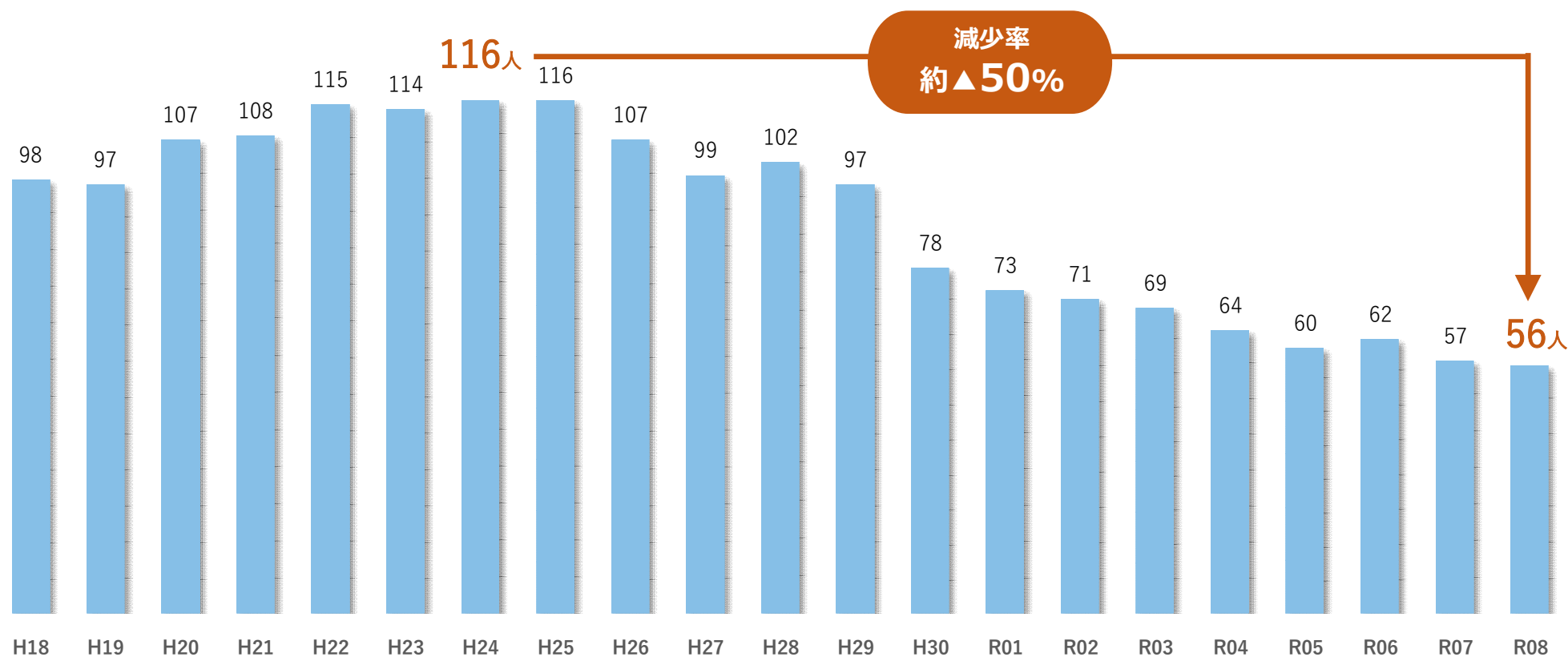
玉野市教育委員会

これまでに寄せられたご意見・ご要望

【学校再編全般】

山田小学校の児童は大幅に減少していないのではないか。

山田小学校の児童数は下図のとおり推移しております。直近の20年間では、H24の116人をピーク時と比較すると、R8には56人と約50%の規模まで激減している状況にあります。



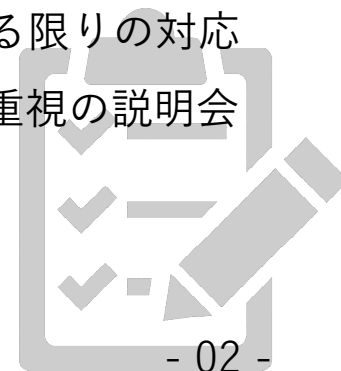
これまでに寄せられたご意見・ご要望

山田小学校の保護者に再編の賛否を問うアンケートを取れば良いのではないか。

現時点ではアンケート調査を実施することは考えていません。

多くの保護者の皆様は、歴史ある小学校が地域からなくなる寂しさがある中で、「少子化の影響から、自分達の時代とは状況が全く変わり統合はいたしかたない。」「現状まで児童数が激減する中で、一定規模の学校で自分の子どもを学ばせたい。」「地域が衰退するため小学校がなくなることは絶対反対である。」など様々なお考えをお持ちです。こうした、保護者の方の複雑な思いは、賛成・反対といった単純なアンケートでは見えてこない部分であります。

そのため、教育委員会としては、アンケートによる単純な数値結果のみをもって判断するのではなく、これまでの説明会や、ウェブで聴取したご意見に対して、教育委員会として出来る限りの対応や課題解決に向けた考え方など、一つ一つ保護者の皆様にご理解いただいけるよう対話重視の説明会を進めております。



これまでに寄せられたご意見・ご要望

防災の観点から考えると、山田小学校の方が安全ではないか。

計画でもお示しておりますが、津波、高潮など防災上の観点からは、胸上小学校に比べ、山田小学校の方が一定の利点があります。

しかしながら、拠点校の選定にあたっては、防災の観点のみならず、再編後の学校の位置関係、居住している児童数、通学距離や通学手段を考慮した地理的要素、必要な教室数を備えた学校規模など様々な視点から総合的に判断する必要があり、山田小・後閑小・胸上小の再編も、それらの条件を十分に検証して選定しています。

一方で、児童の安全・安心の確保は、最も重要なことでもありますことから、胸上小学校においても起こりうるあらゆるリスクを想定し、組織的かつ迅速に対応できるよう教職員が取るべき初動対応や連絡体制をマニュアル化しています。



具体的には、

① 自然災害への備え

地震・津波、火災、大雨や台風に対する対応

② 不測の事態への備え

不審者侵入、ミサイル、爆破予告に対する対応

③ 日常の事故・健康への備え

病気や怪我、プール事故、食物アレルギー、熱中症に対する対応

また、マニュアルを整備するだけでなく、いざというときに機能するよう、計画的に避難訓練を行っています。避難訓練の中では、児童の「自らの命を守る力」を育成するため、児童自身が危険を察知し、校内放送や教職員の指示をしっかりと聞いた上で、安全な場所へ迅速に避難する行動様式が身につけられるよう指導もしています。



これまでに寄せられたご意見・ご要望

【教育環境関係】

統合して児童数が少し増えたとしても、クラス替えもなく、先生の負担が増えるのに、なぜ再編を進めるのか。



【複式学級のイメージ】

教育委員会が推進する適正規模化は、「日常的に多様な他者と関わる環境」が、子どもたちの健やかな成長に不可欠であるという考え方に基づいています。

特に、複式学級が生じるほどの過小規模校では、小規模校の良さよりも課題の方が大きくなっていくと考えられるため、複式学級を生じさせないことは非常に重要なことであると考えています。

複式学級は、児童数の減少によりやむを得ず編成されるものであり、通常の学級とは異なり、児童や教職員にとっても独特の教育環境であると考えています。

前回の説明会では、複式学級となった子どもたちに対するメリット・デメリットをご紹介したため、
●●●●●
今回は複式学級となった場合の先生への影響について整理しました。

先生に対しては

○ 教育課程編成の大幅な変更

複式学級と単式学級が混在すると、「いつ、何を、どのように教えるか」という毎年の教育課程の大幅な変更が生じ、大幅に負担が増えます。

○ 学習の進め方の困難さ

複数学年を一度に教えることができないため、直接指導できる時間が通常学級より短くなり、先生の手が回らないことで「自学自習」の時間の増大や学習の進め方の難しさが生じます。

○ 事務量の増大

複数学年の授業の準備や1人の先生が担う校務の量が増大し、先生の負担が増えます。

○ 教員配置の減

2学級以下の複式学級になると、教頭の配置がなくなり、場合によっては養護教諭等も未配置となります。



上記のとおり、子どもたちへの影響に加え、教職員や学校運営にも大きな影響があることから、子どもたちに適正な教育環境を確保するためにも再編を進めていきます。

これまでに寄せられたご意見・ご要望

再編により、どのような学校にするのか、子どもにどのような配慮をしてくれるのか、具体的に教えて欲しい。

玉野市では、

- ✓ 対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えことができる
- ✓ 他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めることができる
- ✓ 集団としての考えを発展させることができる
- ✓ 他者への思いやりをもって多様な人々と協働できる

こうした、4つの項目ができる「子どもたちが育つ学校づくり」を目指しています。

このように、最適な学習環境を提供できる学校をつくっていくことで、学びの機会が増え、様々な資質・能力が身についていくものと考えています。具体的には、

理科の実験

複数のグループが仮説を立てて検証し、その結果を比較検討することで、科学的思考力が育ちます。



社会科学学習

地域の課題について多角的な視点から議論でき、より思慮深い判断力が高まります。



運動会

学年別リレーや団体競技など多様な種目が実現でき、より多くの体験の場が増えます。



学習発表会

学年ごとの劇や合唱、合奏など集団で目標に向かって学習を進める経験が可能となります。



また、学校再編に対する子どもたちの不安解消のため、次の項目についても配慮していきます。

再編後の先生の配置

可能な限り、以前の学校にいた先生を再編後の学校へ配置するよう努めます。

子どもたちの心のケア

子どもたちの様子や心情等を把握するため、丁寧な声かけや相談体制を充実させます。

事前交流の実施

再編前から学校間の合同授業や行事等の交流を計画的に実施し、児童が段階的に新しい環境に適応できるよう支援します。

これまでに寄せられたご意見・ご要望

鉾立地区の保護者や子どもに対するアンケート結果に対して、今後、教育委員会は具体的にどのような対応していくのか。

アンケートでは、児童数の増加などに対して肯定的な回答が多数を占めていましたが、その中でも、友達との関わり方や学校行事に対する不安など一部の児童からの声がありました。今後の学校再編においても、こうした児童の声を1つ1つ汲み取り、次のような視点で対応していきます。

意見の確認と見守り



アンケートの子どもたちの「心配の声」を適切に把握することが重要です。日頃の1人1人の様子を注意深く観察し、何気ない挨拶や言葉掛けを通じた「心のサイン」の確認を大切にしていきます。

クラス全体で考える「学校づくり」



クラス全体で解決すべき課題がある場合、学級活動などのテーマとして取り上げます。児童自身が自分達の生活をより良くするにはどうしたらいいかを考え、仲間とともに実践する経験を通じて主体的な学校生活を楽しめるよう支援します。

「困り感」への対応



「不安を感じていること」や「学校生活をより良くするためのヒントがないか」など必要に応じて担任や養護教諭等が個別の面談を開催するなど話を聞く時間を設けます。

教育委員会のサポート



アンケート結果に対する学校の対応状況について、教育委員会として適切に把握し、必要な指導・助言を行うなど、全ての子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを支えます。

【参考】 鉾立地区児童アンケート結果

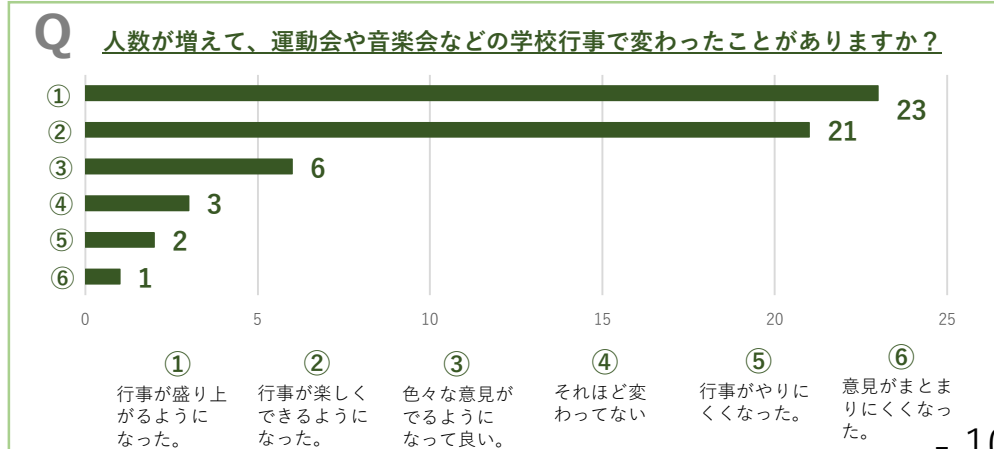
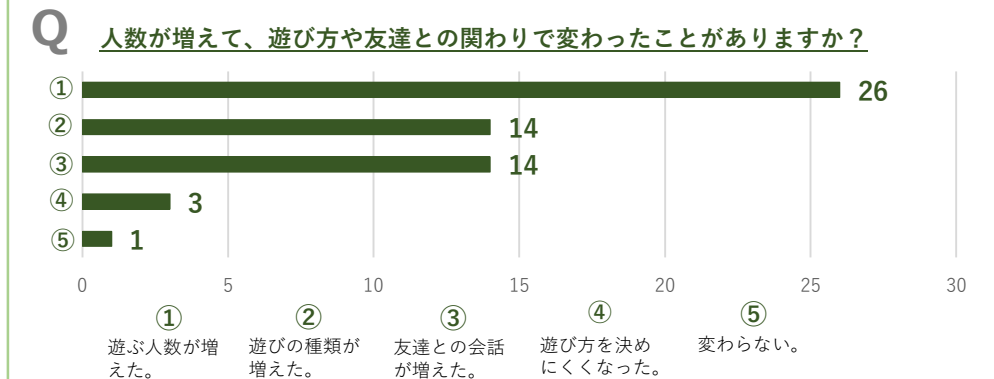
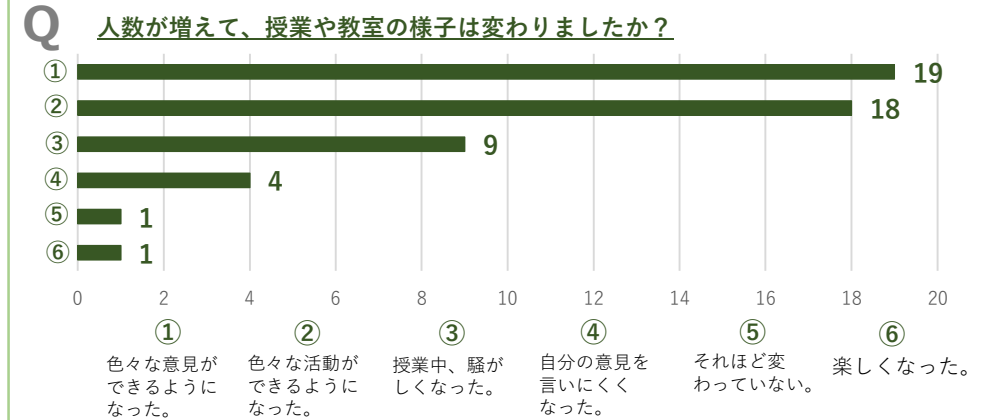
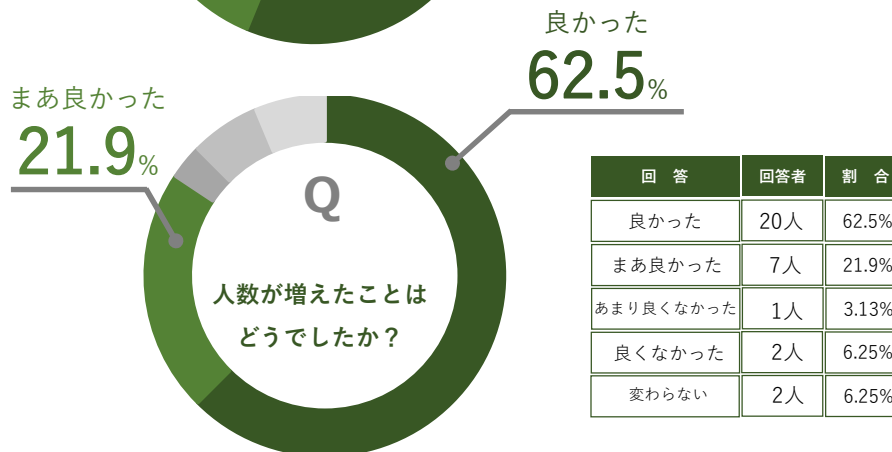
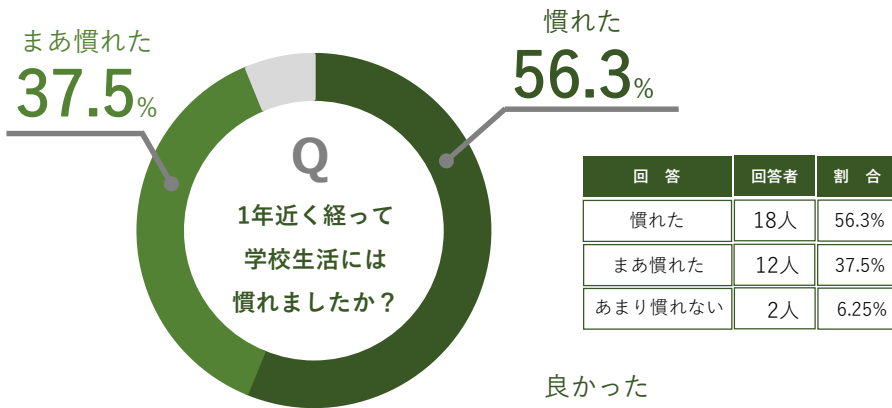
調査概要

調査時期 令和8年3月12日～3月13日

調査対象 鉾立小から胸上小に通学することになった小2～小6

対象人数 32名（全対象児童34名のうち2名は欠席。）

調査結果



これまでに寄せられたご意見・ご要望

【通学関係】

新しく想定される通学路（下図赤線部分）について、現在工事している橋（玉野市道浜屋北浜線（西田井地）の橋の一部）が完成すれば、交通量が元に戻り、通学上の危険箇所になると思うが、橋の工事に併せて安全対策をとれないか。

当該箇所については、橋脚の修繕工事であり、車線の増設工事ではないため、工事完了後、交通量が増大することはありませんが、今後の再編を見据えた対策を早い段階から行うべきとの意向も理解しています。

しかしながら、児童の通学上の安全対策については、今後設置を予定している再編準備委員会において、通学路の交通量や道路状況など危険箇所を1箇所ずつ確認したうえで、実際に児童が通学するまでに可能な限りの対応を実施していきます。さらに、その他の危険箇所についても、Googleフォームを活用して、関係する全保護者へアンケートを実施するなど、幅広くご意見をいただく予定です。



【Googleフォームによる意見聴取】

これまでに寄せられたご意見・ご要望

【再編準備委員会関係】

適正規模・適正配置計画を進めていく上で、責任の所在はどこにあるのか。また、再編準備委員会の委員となる方の立場について教えてほしい。

保護者や地域の皆様の一定の理解いただいた上で設置していく再編準備委員会の委員は、保護者、地域住民、教職員のそれぞれの代表者によって構成し、教育活動や通学、PTA組織に関することなど、再編後の具体的な内容について幅広く協議していただきます。その内容については、各委員の皆様にご意見を求めるのではなく、その意見をもとに、教育委員会において方針決定していくため、最終的な責任は教育委員会にあります。

なお、校名の決定など、準備委員会で募集方法や候補を検討した上で、最終的に市議会に提案し、ご承認いただく案件もありますが、教育委員会としては、再編準備委員会で決定した内容を尊重しながら、責任を持って計画を進めていきます。



【再編準備委員会の様子】